

市民参加実施記録

案 件	伊達市立図書館基本構想（素案）について
市民参加の方法	説明会
実施日時 及び場所等	令和5年12月15日（金曜日）午後6時30分から午後8時まで だて歴史の杜カルチャーセンター2階視聴覚室
所管部課名	伊達市教育委員会教育部図書館

【概要】

<出席者>

市：教育長、教育部長、建設部長、上下水道課長、図書館長、図書館業務係長

市民：25名

1 開会

2 教育長挨拶

3 説明 資料に沿って説明

4 質疑応答

□市民： 新図書館は開架スペースが今よりも広くなると思っているが、イメージとして蔵書数はどのくらいになるのか。また、現図書館は延べ床面積が960㎡であるが、配置図の新図書館は同程度の大きさで描かれており、同じようなイメージでとらえてよいのか。

■市： 現図書館の蔵書数は約10万冊程度で、その内開架には約7割の本が配置されている。現図書館の1階面積は750㎡であり、新図書館の1階面積は約870㎡程度になり、市民の意見要望を取り入れていくと、財政状況にもよるが延べ床面積は約1,200㎡程度になると想定している。面積だけ見ると現図書館より広いが、車椅子でも余裕のある書架の配置にすると実際に置ける本は多くはないと考えている。

□市民： 基本的な考えの中に、小中学校、義務教育学校、高校などの児童生徒の活用増進を図るとあるが、子ども達から意見を聞いて基本構想に反映させる手立てもあると思うがどう考えているか。

■市： このたび、市内小中高校生に対して図書館に関するアンケート調査を実施しており、小学生だと家が遠くて図書館に行くのに保護者の協力が必要であり、学校の行事でしか図書館に来られない子もいる。電子図書を備えることで、そういった子ども達に図書館の本を読んでもらえるという意見も出ているため環境を整えていきたい。

□市民： 司書にはとても親切にされており、図書館は直営方式が良いと思っている。

また、司書の働き方が重要になるとしており、建物面積が広くなればそれだけ働く方がもっと必要になると思うが、今現在、司書は何人いて常勤の正規雇用の方は何人いるのか教えて欲しい。

■市： 司書の人数は3人であり、正規雇用ではなく月額会計年度職員（旧嘱託職員）であり、その他に月額会計年度任用職員（旧臨時職員）が3名、館長・係長の事務職員2名の8名で運営している。新図書館では司書が働くための事務スペースなども働きやすいレイアウトにしていきたい。また、現図書館の後利用施設については、主に別の用途の施設となるため職員については新たに採用することになり、図書館部分の司書たちの人数については現状のままになると考えている。

□市民： 開館当初の図書館に求められていた機能が変化しているということだが、もう少し詳しく教えて欲しい。

また、運営に関して指定管理で民営化されている図書館がたくさん出ている。伊達市では民営化は考えていないとのことなので安心はしている。図書館は営利目的ではないし人が多く来ればいいわけでもない。

■市： 変化している機能のひとつにデジタル化があり、自動検索や自動貸出返却の機能、新聞記事のデータベースなどを考えていく必要がある。

また、かつては本をじっくり静かに読むのが図書館であり、時代とともに変化しているとはいえ、図書館の基本的な要素は大切しなければならない。

現在、アドバイザーとして、図書館のいろいろな機能を改革している大学の先生に、整備検討委員にお呼びしてアドバイスをいただいている。

これからは市民の交流の場や、学校の学びも変わってきていて、個人に応じた学習と、グループで議論し考える協働的な学習というスペースは、図書館の機能として必要である。

また、静けさを尊重するスペースと、皆でワイワイしながら学んでいくスペースなどいろいろな目的があり、飲食を可能とするスペースも出てきているので、そういった機能や役割が変わってきている。

民営化については、当面直営で行う予定であり、図書館は入場料をいただいているおらず、無料で入館でき予約もいらぬのが大事なポイントと思うので、直営のよさを活かしていきたい。

□市民： 専任の館長を置く考えはあるのか。

■市： 館長は課長職であり、一般事務職として配置している。館長を拝命された職員は、市民の要望にお応えできていないところがあるが、日々勉強しながら努力をしてきた。専門の館長職は市としても考えていないわけではなく、当面は現状のままになると思うが、今後、可能かどうかも含めて検討課題として受け止めている。

□市民： 市ホームページにおいて、12月22日までの「新しい図書館の意見を募集します」と、それと別にパブリックコメント「図書館について意見を募集しています」が12月8日から1月10日までとなっているが、2つの違いは何か。

また、室蘭在住の知人から聞かれたのだが、3市（室蘭・登別・伊達）で本の相互の貸出・返却を行っていて私もよく借りるが、3市に住んでいる人であれば意見を出すことができるのか。

指定管理について私も市直営がいいと思っており、日本では一般的に指定管理は不透

明なところがあり、不正の温床になりやすいと聞いたことがあるので、図書館には指定管理制度を適用させずに、市の財産としていてもらいたい。

■市：市ホームページの「新しい図書館の意見を募集します」については、新しい図書館にどんなことを望むのか、建物や運営などいくつかの項目に分けて意見を募集しているもので、12月8日からのパブリックコメントは、本日説明した図書館整備基本構想（素案）についての意見を募集するものである。

また、室蘭市民も意見を出せるのかは、3市の共同事業で室蘭・登別の方にも伊達の図書館を利用していただいております、ぜひ意見をいただきたいと思っています。（但し、伊達市市民参加条例第2条第1号に該当しない方の意見の公表はできない）

□市民：影山教育長がいる間は、図書館の指定管理はないということなのか。

新しい図書館を建て、現図書館を改修して後利用施設にするということは、静かなところを新館にして、騒いでもいいところを現図書館の後利用施設とするイメージとしているのか。30年間週2回ほど図書館に通っているが、最近職員の人数が1人か2人しか見えないが、そのような状態で2つの建物ができたらやっていけるのだろうか。新館と現図書館の後利用施設の中で、どれだけの人数を増やすのか気になっている。

■市：職員も人事異動で変わりトップが変わることもあるので、未来永劫に指定管理がないとは言えないが、現段階では指定管理は考えておらず直営で運営していく。

最終的に内容が決定していないため現図書館の後利用施設としているが、重点的に話題として考えているのは、外に複合遊具ができたが北海道の冬は屋外で遊ぶ機会がないため、屋内の遊具施設を現図書館の後利用施設でと考えている。

機能が重なる部分として、例えば絵本の読み聞かせスペースなどが考えられるということも、整備検討委員会でのアドバイザーの意見も踏まえて検討し、今後設計業者も決まっていくが、どうしたら機能が連携して市民の要望に応えられるのか詰めていきたい。

ざっくりとしたイメージでは、遊び場の部分と子どものエリアがつながっていくような、そして本来図書館がもつ機能をしっかり行い、大きな施設ではないが有効に使っていける形にしていきたいと考えている。

職員数が近頃少ないことについては、最近のインフルエンザ流行の影響や、たまたま閉架書庫で作業をしていたタイミングが重なったと思うが、少なくとも常時3人はいる体制をとっている。

また、現在の職員数でやっていけるかは、現図書館の後利用施設はすべてが図書館の用途ではなく、職員も新たに採用していくのではと思っており、図書館部分については現在の職員数でやっていけると考えている。

□市民：室蘭市の「きらん」のような施設をイメージして構想していると思うが、今の図書館だと本に興味がある人しか玄関をくぐらないような構造かなと考えている。配置図を見るとエントランスゾーンが共有部分となっていて、現図書館を改修するとき玄関の形が変わるのだと思うが、子どもが小さいうちは保護者が連れて図書館を利用し遊び場も利用するが、小学校に上がると保護者がつかなくなり、図書館から足が遠のくと思う。

ただエントランスゾーンが、どちらの施設にも開かれたものであれば、子ども達が外で遊び、中で遊んで、その延長線上に図書館が見えると気持ちが図書館に広がり、今ま

で本に触れなかった子も本に触れる動機付けとなるエントランスゾーン、共有スペースがあるとよいと思う。

また、中学生高校生になると、自宅ではなく静かな図書館の学習スペースで勉強したいという時期がある。そういうスペースが現図書館には無く、カルチャーセンターに一部用意しているが、やはりきちんとした学習スペースがあると中高生はとても助かると思うし、大人もパソコンを使用して仕事ができるように、ある程度の個数があるとありがたいし、インターネットの回線も使えるのか現在のイメージをお聞きしたい。

■市： 詳細については今後の協議となるが、イメージとしては「きらん」のようなものを考えている。エントランスのあり方についても、両施設が一体感を持ったエントランスになるようにして、小学生に限らず多世代が気軽に来られる雰囲気になりたいと考えている。

新図書館では個人が静かに学習できる環境を整えたいと考えており、Wi-Fiなどのデジタル環境についても整えていきたい。

□市民： 個別学習スペースは何人くらいを想定しているのか。

■市： 面積は60～80㎡を考えており20名程度を想定しているが、詳細は設計業務の中で詰めていく。できるだけ多くの人が気軽に利用できる形にしていきたい。

□市民： 図書館でボランティア活動をしているが、とても必要とされている場だと感じている。

主な活動場所が現在の2階視聴覚室であり、作成した作品や物品を収納する部屋は割り当てられているが十分な広さではなく、各種イベントの準備作業も視聴覚室のカーペットの上で行っている状態が開館当初から続いているため、ボランティアがゆっくりと作業できるスペースがあればよいし、他のボランティア団体からも意見を聞いて、ボランティアが使いやすい施設としてほしい。

■市： 場所が新図書館なのか現図書館の後利用施設になるかは決まっていないが、ボランティアの皆さんが使いやすい環境を整えていきたいと考えている。

□市民： 建物のデザインについて、新図書館と現図書館の後利用施設のデザインの共通性というか、図書館が文化的な温かみのある施設となることが大事だと思う。札幌で見た図書館の外観は普通の建築物だが、中に入るとベンチや棚などに自然の木をふんだんに使用しており、曲線を利用した匠の技で作られたものが配置されている。

イベントスペースでも子ども達がファンタジーや森を感じるようなデザインプランや、図書館の海側にある歴史的な木の建造物との共有などを考えていると思う。だからこそデジタル化も進んでいく。市民の意見はすべて反映させられないだろうが、小さい子や若者や年代の高い方々にとっても、そこに訪れたいというデザインと屋内の自然の良さを生かした材質が大事であり、テーマがあって建築家の方に委託するのかお聞きしたい。

■市： 設計については来月入札があり業者が決定するが、業者とも十分に協議を重ね進めていきたい。市民意見の中でもおしゃれな図書館にしてほしいとの意見も多く、建設する場所も自然が多いゾーンなので、周囲と違和感のないデザインで進めていきたい。また、屋内についても木の温かみのある内装で、子どもが手に触れるところなども木を多く使

うなど、温かみのある雰囲気かつ開放的で明るい図書館にしたいと考えている。

□市民： おしゃれな図書館でカフェがあると確かにうれしいし、お話できるスペースなどとても大事だと思うが、図書館の基本である文化的な施設としての役割、営利を生み出すものではないが市の文化や人を豊かにしていくところはしっかりとした上で、現代的な要素を取り入れていけたらいいと思う。

■市： 今後も運営は直営を考えているので、そこは期待していただきたいと思う。

先程のご質問にもあった施設の中身についても、外観から素晴らしい形になると金額もかかることなので、外観よりは室内に木をふんだんに使用するなどの充実を図っていきたいと思っている。

また、ボランティアの方が読み聞かせを行うとき、どんな部屋を作れば子ども達が喜ぶのか情報を集めて参考にするとともに、ボランティア以外の方々も気軽に来られる図書館でありたいと思っている。

今の図書館は静かにして本に親しむだけではなく、子ども達が自由に活動でき、しっかり本を読みたい人は専用のスペースを作っていくのが主流であるため、市としてもそのような施設をつくっていろいろな方にお集まりいただければよいと考えている。

5 閉会